

生誕 110 年 作品受贈記念 川端謹次展が開幕！

5月26日、植野記念美術館で「川端謹次展」の開会式と開幕記念講演会が行われました。川端謹次氏は柏原地域出身の画家で、来年の生誕110年に向けて新たな寄贈品が展示されました。記念講演では、川端謹次氏のご子息皓孔氏と、神戸ゆかりの美術館・神戸市立小磯記念美術館館長の岡泰正氏が川端謹次氏の制作への想いを語り、来場者は熱心に耳を傾けていました。



作品について講演をする岡館長

市大会出場をめざして 消防団 6 支団で操法大会

7月1日、グリーンベル青垣で行われる「丹波市消防操法大会」の予選を兼ねた「支団大会」が各地域で行われ、日ごろの練習の成果を披露しました。大会は消防団員の消火技術の向上や組織の団結を図る事を目的に行われています。市大会出場を勝ち取った選手は、「まだ冬の寒さが残る3月から練習を重ねてきた。今度は支団の代表としてがんばります。」と話しました。



練習の成果を披露する選手たち

雨の丹波市を快走！ 三ッ塚マラソン大会を開催



一斉にスタートするランナーたち

5月13日、新緑の丹波路を走る「第30回三ッ塚マラソン大会」が開催されました。当日は朝から雨に見舞われましたが、全国各地からエントリーした1,643人のランナーが竹田川沿いのコースを元気に走り抜けました。参加したランナーは、「雨だったけど、がんばって参加してよかった。楽しかった。」と話し、会場には晴れやかな笑顔があふれていました。

田ステ女俳句ラリー 今年も力作ぞろい！



柏原藩陣屋跡に設置された投句箱に投句する子ども

5月13日の母の日に「第22回田ステ女俳句ラリー」が柏原地域で開催されました。雨が降る中、参加した110人が城下町の趣を残す柏原のまちを巡りながら句を詠みました。大賞の「ステ女賞」には、大阪府高槻市の松代享子さんの作品「田ステ女 さがして歩き すいかずら」が選ばれました。

元気な稲が育ちますように 全校児童で田植え体験

5月25日、大路小学校で全校児童100人そろうての田植えが行われました。当日は晴天に恵まれ、夏のような強い日差しを浴びながら、児童は1本1本丁寧に苗を植えました。初めて田植えを体験する1年生は、少し泥の中に入るのを怖がっていましたが、高学年のお兄さん・お姉さんに優しく手を引いてもらい、田んぼの中へ。次第に慣れて田植えを楽しんでいました。全校児童が参加する田植えと稲刈りは、毎年PTAの協力により行われ、恒例行事になっています。収穫したもち米は11月に行う「アグリフェスタ in おおじ」で6年生が販売し、地域への貢献を通してふるさとの良さを学びます。今年は田んぼに色の異なる2種類の稲を植え、校章の絵柄を描くことにも挑戦しました。PTA会長の松山典章さんは「作物をすることで食べ物のありがたさを知ってほしい。真剣にやればすごいものができるということも学んでほしい」と話しました。



手をつないで田んぼに入る大路小学校の児童たち



泥の感触に笑顔を見せる児童

日本海側と瀬戸内海側の生きものが共存する 氷上回廊の環境調査を実施

5月19日、氷上回廊の生態系を守る活動の一環として「丹波地域のホトケドジョウを守る会」による環境調査が市内5カ所で行われました。ホトケドジョウは、県内では丹波市内の5カ所でしか生息が確認されていません。湧水周辺の湿地などに生息し、氷上回廊の生物多様性を象徴する希少な生きものです。調査は毎月行われ、活動状況はホームページ「氷上回廊」で公表予定です。



ホトケドジョウの調査をする会員のみなさん

丹波市産の食材を使用 5事業者が新商品をお披露目！



開発した新商品を紹介する事業者

丹波栗・黒大豆・大納言小豆の丹波三宝や、黒ゴマ・シシ肉など丹波市産の食材を使った新商品が開発されました。地域資源を活用した新商品の開発に対する市の補助金を受け、5業者の商品が完成しました。新商品は市内の店舗・商業施設などで購入、または注文することができます。※商品の詳細は市ホームページに掲載中